

日韓児童ら「一体教室」



藤井寺の道明寺南小 ネット回線で合同授業

ネットで日韓の教室を一つに。藤井寺市立道明寺南小学校（森口弘二校長）は十三日、テレビ会議システムを使って韓国・金海市の市立翰林初等学校と「接続」、共通の教材で一人の教師が行う授業をリアルタイムで行う合同授業を開催した。

今回利用したのは、大阪大学大学院人間科学研究科・前迫孝憲教授研究室と産業技術研究所が共同開発した「ハイパーミラー方式」と呼ばれるテレビ会議システム。

両校の教室にカメラとスクリーンを設置し、インターネット回線で接続。授業中の音声と画像を同一画面に合成して、ほぼリアルタイムで双方の教室に映し出し、同時通訳を介する方法で行われた。

この日の授業には、両校の六年生計約百四十人が出席し、道明寺南小の岩下治郎教諭が授業を担当。合成画面上で「握手」や「抱きあう」などしたほか、同じ教材に掲載されている詩を鑑賞した。児童の一人は「握手の実感はないけど、画面では本当に手を握り合ってるみたいで面白かった」などと話していた。